

R3年度 荻谷小学校 学校評価のまとめ

12月上旬に実施した「教育活動診断票（アンケート調査）」へのご協力、ありがとうございました。その結果をもとに、1月17日に「学校関係者評価委員会」を開催し、5名の委員の方とアンケートの分析を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

- 対象 保護者全員（回収率98.6%） 児童 4年生以上（148名）
 ○分析 4段階評価のうち、よくあてはまる（そう思う）とややあてはまる（だいたいそう思う）を合わせたものを肯定的評価ととらえ、それをもとに行っています。

※数値に付けた矢印↑又は↓は=前年比5ポイント以上、↑↓=10ポイント以上の変化を表しています。

<今年度の重点努力目標について>

①「かしこい子」（知）の育成に向けて

- （「学ぶ」教室への意識改革と子ども同士が学び合い高め合える教室コミュニティの創造
 ・体験活動を重視した学習展開 ・子どもの学習スタイルの確立）

・授業は分かりやすい	(児：93.2% ↑ 保：79.5% ↗)
・進んで意見や感想を発表	(児：62.3% →)
・話をしっかり聞く	(児：93.2% ↗ 保：76.7% →)
・ペアトーク	(児：79.1% →)
・家庭での学習	(児：77.7% ↑) 保：78.1% →)
・考えや振り返りを書く	(児：84.5% ↑)
・自主的な学び	(児：81.8% → 保：80.2% ↗)
・本を読むことが好き	(児：76.4% → 保：47.6% →)
・(新) パソコン・タブレットの使用	(児：88.5% ↗ 保：53.3% →)

「授業は分かりやすい」は、大きく上昇しています。これは、「話をしっかり聞く」や「ペアトーク」も上昇していることから、子どもが授業に集中し、自分の意見や感想を友達と意見交換しながら理解を深めていることの表れであると思われます。「家庭での学習」も大きく上昇し、保護者の「家庭学習の習慣が身についている」も微増して8割近くとなっています。この2年、保護者の支えをいただきながら家庭での学習スタイルが確立できているのではないかと推察できます。

これらのことから、本校のめざす児童の姿である「主体的に学びに向かい、共に学び合う喜びを感じる子」に向けて前進していると考えられます。今後も継続的に取り組むとともに、今年度以上にタブレット端末を活用し、自分で考え、自主的に調べたり、人に聞いたりして問題解決しようとする子どもを増やしていきたいと思えます。また、微増ではあったものの、本を読むことについても今年度は活動が制限された読み聞かせ等の活動によって、家庭でも本に触れる児童を育てていきたいと考えています。

②「あかるい子」（徳）の育成に向けて

- （体験活動を充実し、人のために働ける荻谷小文化の創造 ・道徳教育での自己内対話の重視
 ・折れない心の教育 ・道徳教育、キャリア教育の充実）

・あいさつや返事	(児：92.6% ↑ 保：89.9% ↗)
・約束やきまりを守る	(児：90.5% ↗ 保：81.6% →)
・進んでそうじに取り組む	(児：85.1% →)
・身の回りの整理整頓	(児：66.9% → 保：39.2% →)
・自分にはよいところがある	(児：87.2% ↑)
・あきらめずにやり抜く	(児：85.1% ↗ 保：72.9% →)
・人の気持ちを考えて行動	(児：89.2% ↑)
・学級の友達と協力	(児：95.2% ↗)
・下級生に声かけや手助け	(児：84.5% → 保：90.6% ↗)

「きまりよく」の校訓のもと、全体としては落ち着いて生活しています。みどりのチームや6年生のハッピープロジェクトを軸として、感染症対策のため少人数での活動となりましたが、異学年交流は盛んに行うことができました。その成果が「荻谷っ子フェスティバル」への取組につながり、学年を超えて良好な友人関係が築かれ、温かい心の育成へとつながったと感じます。子どもの評価では、あいさつや返事、掃除などを筆頭に全体的に大きく上昇しました。また、「自分にはよいところがある」が大きく上昇していることから、自己肯定感を高めながら生活している子どもが増加していることが伺えます。今後も、失敗を恐れずに立ち向かい、失敗の中から学べるような活動を多く取り入れつつ、道徳で多様な考えに気づかせていくことを強く意識して取り組みます。それらを通して、子どもたちが広い視野をもち、自らたくましく社会を生き抜いていく力を養っていききたいと考えています。

「身の回りの整理整頓」については微増で、家庭でも整理整頓がまだまだできていないようです。今後も整理整頓の習慣化が図れるよう指導していく必要があると考えます。

③「げんきな子」(体)の育成に向けて

- (・「すこやかタイム」を生かしたバランスのとれた体力づくり ・防災・安全教育の推進
・学校保健委員会の充実と食育の推進)

・早寝・早起き・朝ごはん	(児：80.4% ↗ 保：77.4% →)
・すこやかタイムに進んで参加	(児：77.7% ↑ 保：80.2% ↗)
・けがや病気に気をつけて生活	(児：87.2% →)

「すこやかタイムに進んで参加」は、児童で大きく上昇し、保護者では今回のアンケートで一番上昇した項目でした。今年度も、「すこやかタイム」を十分に実施できない期間がありましたが、取組を工夫したことで、家庭での話題になるような楽しい体力づくりになったのではないかと考えます。また、低学年で実施した体操やヨガの教室も、体を動かすことの良さを自覚することにつながったと思います。フェスティバルやマラソン大会といった体育的行事に向けて自主的にランニングやリレーに取り組むなど、子どもたちの主体的な姿も見られました。今後も運動の楽しさを伝え、自分の目標に向かって努力し、達成感を味わえるような支援を模索していきたいと思ひます。また、今年度は食育指導や電子メディアの取扱いを学習しました。今後も継続して子どもたちが健康的な生活習慣を形成できるよう家庭と連携して支えていきたいと思ひます。

④安心・安全で生活しやすい環境づくりに向けて

- (・「心の居場所」づくりといじめの未然防止・早期発見 ・個別の支援)

・相談できる友達	(児：87.2% → 保：73.3% →)
・先生に相談	(児：59.5% → 保：68.8% →)
・家の人に相談	(児：70.3% ↘ 保：80.1% →)
・子どものことを相談	(保：80.2% →)
・通学班で安全に登下校	(児：84.5% →)
・安全な登下校	(児：87.2% →)

重大ないじめ事案はありませんでした。担任を中心にその都度、話を丁寧に聞き、情報交換を密にしてチームで対応していくことを心がけてきました。今後も、学期に1度の生活アンケートと教育相談だけでなく、普段から児童理解と保護者との連携に努め、適切な支援ができるよう考えています。安全面についても大きな事案はありませんでした。一番大切なことですので、毎月の施設設備点検や登下校や放課での子どもたちの姿を今後も注視し、事故の無いよう見守っていく必要があると考えています。

⑤学校・家庭・地域の連携・協働に向けて

- (・通信、ホームページ等の充実 ・地域の教育資源(ひと・こと・もの)を活用した「特色ある」教育活動の展開)

・地域の活動や行事への参加	(児：79.1% → 保：70.8% →)
・教育活動等の情報発信	(保：83.1% →)
・子どもたちが保護者や地域と関わる機会	(保：95.5% →)
・PTA活動や家庭教育学級の充実	(保：94.4% →)
・保護者や地域ボランティアの活用	(保：89.8% →)

サツマイモ栽培や5年生の稲作、3年生のイチゴ栽培など、地域の方にご指導いただきながら進めることができました。また、美化作業や交通立番、読み聞かせなど、制限のある中、工夫して実施しました。家庭教育学級(親子活動)についても同様で、親同士・子ども同士での有意義な活動ができました。今後も子どもたちの感性を豊かにする体験を大切に、子どもたちの生き生きとした姿をホームページや通信で積極的に発信していきたいと考えています。また、「地域の活動や行事への参加」については、子どもたちが早くコロナ前の姿にもどれるよう、地域に目を向けて地域とのつながる授業やPTA活動に取り組んでいく必要があると考えています。

<全体を通して>

・学校へ行くのが楽しい	(児：92.6% ↗ 保：91.7% ↗)
・行事や児童会活動が楽しい	(児：91.2% ↑ 保：93.4% →)

児童に対するアンケートでは、全30項目のうち19項目、保護者に対するアンケートでは、全26項目のうち11項目が過去5年間で最高の数値でした。なかでも、児童・保護者共に、学校に行くことが楽しいと感じてもらえているので安心しています。今後も子どもたちの笑顔あふれる学校づくりに努めていきます。また、アンケートの評価から、教育活動をよりよいものにするために、地域を知り、地域で共に生きるための学びを推進して「社会に開かれた学校」の実現をめざしたいと考えております。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。